神奈川県立横浜ひなたやま支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次の通り開催しました。

審議会等名称	令和8年度 第1回横浜ひなたやま支援学校 学校運営協議会		
開催日時	令和8年5月26日（火）9:30～11:30		
開催場所	横浜ひなたやま支援学校 北棟4階 会議室		
出欠席者	学校運営協議会委員 出席8名、欠席2名、事務局（本校職員：出席8名）		
次回開催予定	令和8年10月27日（火）9:30～11:30		
問合せ先	神奈川県立横浜ひなたやま支援学校 副校長 比留川 はるか 電話：045-300-5611　FAX：045-303-2330		
下欄に掲載するもの	議事録	公開を概要とした理由	
審議・回議経過	○開会 ・会長選出、会長挨拶、校長挨拶、委嘱状交付、委員自己紹介、事務局自己紹介 ○学校評価部会		
事務局	（1）事務局より➡学校運営協議会設置要項（本校）の改定について確認 （2）高等部3年生徒発表「修学旅行の思い出」 （3）本校の紹介（校長より） （4）事務局より➡令和8年度学校評価目標設定について、今年度の目標、具体的な方策、評価の観点について説明。 ○質疑応答および協議　（進行：会長）		
委員1	・限られた時間ではあるが、順番に何かご意見等をいただき、それに対して学校関係者からお答えいただければと思う。どうぞよろしくお願いしたい。		
委員2	・地域夏祭りを7月25日に行う。学校の出店をお願いしたい。自治会で来賓用クッキー50個とイス等物品の借用を依頼する。テントの関係は、24日の10時から建てる予定である。模範演武（空手）、南瀬谷中学校和太鼓部の演奏もある。地域を盛り上げるために、ご協力をいただきたい。		
委員3	・地域防災拠点の担当、修学旅行の報告を受け、北海道に以前いたことがあり、昔とは小樽も随分変わっており時代を感じた。後程の地域防災部会でいろいろ話をしたい。		
委員4	・視点1－1－ ②、生徒の実態に応じたキャリアパスポートの完成を目指すとある。視点2－1－ ①、個々のニーズの変容を捉え、個別教育計画を作成とある。キャリアパスポートと個別教育計画は、別なのか、つながっているのか。		
事務局：教務GL	・キャリアパスポートは、楽しかったこと、がんばったこと、がんばりたいことなど、生徒が振り返るためのシートである。課題や強みなど、生徒自身が自分のことを学期ごとにこのシートをもとに振り返っている。その内容を個別教育計画内の本人の意向やその他の実態や課題の部分に反映させて、目標や目標達成に向けた支援を教員が考え記載する、関連づけたものになっている。		
委員4	・キャリアパスポートというのは生徒自身が書いて、個別教育計画というのはそれをもとに教員が作成するということか。		
事務局：教務GL	・教員がキャリアパスポートに目を通し、生徒の日々の様子や気持ちを聞き取る等のやり取りを通して、本人の目標を引き出している。キャリアパスポートは生徒とのやり取りをするツールでもある。		
委員4	・それは個別教育計画作成のための、キャリアプランシートのような感じだろうか。➡そうである。		
委員1	・日常の教育活動を様々行うが、その中に目標があり、その評価を学校側が行う。以前は通信表のようなものだった。今は個に応じた目標を設定している。特別支援学校の場合は、自立活動もあり、項目に応じた目標を立てて、年間を通して評価をする、個別教育計画は教員が評価し、キャリアパスポートは、生徒自身が自分のことを振り返るものである。		
委員4	・特別支援学校独特のものか。会社、企業と同じなのだろうか。		
委員1	・個別教育計画というのは特別支援学校特有のもの、高等学校には通常なく、各個人の目標を立て		

	るキャリアプランなどの企業の内容と同じである。
委員5	・横浜では、小学校も個別の支援計画を作成している児童もいる。一般学級とは違い、個別支援学級の児童については必ず作成する。こちらの学校では、本人の意向を汲んでいるかもしれないが、小学校ではまだ保護者との共有だけである。保護者と「こういうねらいでやっていこう」と伝える。数年前より、一般学級の児童を週に何回か個別指導も実施しており、その場合も個別の指導計画は必要である。小学校でも、キャリアパスポートを作成しており、もちろん中学校までつなげていく。 横浜ひなたやま支援学校に長く勤めている方に、教育活動を通して、生徒の成長を感じる部分や生徒の変化の様子など教えてほしい。
事務局：学部L	・本校8年目、今年の1年生は14期、自分は5期生の時に着任した。その頃は、言葉の理解が高い生徒が多く、言葉での指示が通る印象だった。自分で考えて行動できる生徒が多かったと思う。コロナ禍の影響でコミュニケーションをとる機会が制限され、自分からの発信やコミュニケーションをとることがなかなかできない生徒が増えているのではないかと思う。言葉の指示のみで行動できる生徒もいたが、今は言葉だけでなくイラストカードを使ったり、手順書を用意したり、個別の支援が必要な生徒もいる。高等部なので、卒業後は社会に出て働くことを踏まえ、自分たちで考えるグループワークや体験活動を本校では大事にしている。これまでは学年活動が中心で、縦割りや学部での活動が少なかったので、学部集会、よこひな祭だけでなく、地域または学年以外の生徒との交流の機会を作り「先輩から後輩へ教え、後輩が学ぶ。翌年、後輩に伝える。」ことや、運営も話し合いながら行っている。今年度は特に生徒会に力を入れ、生徒会イベントを開催、昼休みのレクリエーション活動をとおして交流をするなど、卒業後に向けてコミュニケーションの力を育てる取組を行っている。
委員5	・今の話は視点1か視点3か、「縦割り」の表記がないので、入れると良いのではと思う。実は、本校もコロナ禍でできなかった他学年との交流をコロナが明けて令和5年に 1・6年、2・5年、3・4年の2学年間の交流を再開した。令和6年度からは全校縦割りで月1回の活動を取り入れている。やはり、交流で子どもたちが得るものは圧倒的に大きい。自分の学年、自分のクラスだけでいろいろ勉強したり活動したりしているのと比べ、違う自分がちゃんと出てくる。特に高学年は圧倒的に、優しさや思いやりが出てくる。そういう機会が必要だなと思うと、高校生段階の縦割りはなかなか難しいが、学校評価の目標に位置付けて明確にすると良い、と今の話を伺って感じた。横浜ひなたやま支援学校の生徒の行く末というのは、すごい社会とか世界とか大きい。生徒たちがどう生きていくか、卒業後まで見届けることはできないが、ぜひ生徒たちに、自分たちの価値や何かを感じて社会に出て行っていただきたい。 よこひな祭の前日の20日（金）は校内生徒向けだが、本校の個別支援学級が参加できるとありがたい。（校内で確認して前向きに対応を検討中）
委員6	・立場上、非常に視点3が気になる。1年間の目標と具体的な方策がほぼ同じような内容である。この記載内容を変えるのではなく、具体的な方策は、実際に各学年はどうするのか、興味がある。何か柱として考えている、例えば3年生では自立に向けてこう取り組んでいくなどがあれば知りたい。
事務局：連携支援GL	・3年間を見通した進路学習のベースがあり、「職業」の年間授業計画に落とし込んで、各学年の年間指導計画を作っている。その年間指導計画に基づいて各学年で学習する。その項目でどの教材で、どのように学習を進めたのかということを収集したいと思う。それをもとに次年度の年間指導計画に少し具体的な内容を盛り込めたらというイメージを持っている。例えば、「実際に実施したが、やはり1年生ではこの項目は難しかったので2年生向けでは」となれば、3年間の指導計画の見直しにもなる。1年生で学んだがまだ定着に至らないという内容なら、どの時期がいいタイミングか、学習効果が高い時期はいつか、などを取り入れたい。各学年で何をやるのかとは、少しイメージが違う。
委員6	・項目で「できる」「できない」を検討していることがよくわかった。いろいろな場面で、いろいろな支援学校の先生方と話す中で、企業就労に向けて、1年生ではどんなベースづくりをして、2年生ではいろいろな作業を体験して、3年生で業種を決めて就労体験させて、就労先を選んでいくということを弊社の方では認識をしているが、私が聞いている部分と教育現場とでは認識に差があるのだなと思った。状況としてはよくわかった。

委員1	・自身の体験だが、前任校でも、系統性のある指導はなかなか難しく、やはり課題であった。 よく言われる職業準備性を高めていくこと、将来福祉サービスを利用する場合でも企業就労する場合のいずれでも、就労に結び付くことに向けた必要な職業準備性をどう高めていくかということを1つのベースにして、うまく授業に取り込んでいくことは、特にどの特別支援学校の高等部段階でも課題であると思う。横浜ひなたやま支援学校でも、系統性のある進路学習が1つ目標となり課題となっており、今回は「職業」をクローズアップしたということだろうか。
事務局：連携支援GL	・日課表（時間割）には「職業」を設定しており授業を行うが、作業学習ももちろん職業の内容の授業である。
委員1	・「職業」は教科ではなく、進路学習の別名だろうか。「職業」という授業時間を取り入れている学校もあるが。横浜ひなたやま支援には作業学習はないのか。両方合わせて行っているのか。
事務局：教務GL	・「作業学習」と「職業」の両方がある。それぞれで行っている。
委員1	・「職業」の時間では座学なのだろうか。
事務局：学部L	・座学の部分もあるし、実際の面接練習をするなどもある。
委員1	・3年間を通して1年次ではこういうことをできるとよいのでは、というように、現在は系統立ててもう少し整理している段階、3年次の最終的に企業の面接を考えている生徒はそれができるように整理しているということだろう。そのあたりを作成していくということ。 それを受け質問したい。教員の中にもいろいろな経験の差があり、初任者の方も含め経験のない方も増えて、進路支援力は教員に差があるのではと自身も課題と感じている。その点を横浜ひなたやま支援学校では、どうフォローしているか。保護者対応をする時に、「この進路先について聞きたい」相談され、「それは進路担当の先生が詳しいのでその先生に聞いてください」と返答すると、保護者との信頼関係が丸投げになってしまう。そういう場合はどうしているか。
事務局：連携支援GL	・保護者が担任に質問したことを「進路担当の先生に聞いて」とは答えないと思う。担任の方から進路情報がほしいということを進路担当者に相談していると思う。現場実習に生徒が行くにあたり、実習事前面接の経験を初任の方はやったことがない場合がある。その場合は、進路担当者からミニ研修を学年会の時間などに設定し、対応方法や必要物品、準備物ほかの説明をしたいと時間設定を提案して行うこともある。
委員1	・要するに生徒にとっても系統性のある進路学習は大切だが、教員にとっても系統的な進路学習とはすごく大事だと思う。できるだけ早くその点を整理していく必要がある。 委員6の企業のご意見も含めて学校運営協議会としていろいろな意見をまとめたらいいのではと思う。
事務局：教務GL	・教員向けの研修など、進路に関する新しい情報や「このように進めていくといい」3年間それぞれの学年の取組場面はこういうものがあるという内容の研修も行っている。また、教員向けの進路の手引きを一昨年作成し、「この時にはこの情報が必要」や事業所の違い等、いろいろな内容を資料集にまとめた。新しい先生方もそれを活用しながら知ることができるよう、整えているところではある。
委員1	・それがあれば、3年担任で初めて知るのではなく、1、2年生の担任でも早くに意識できると思う。
委員7	・目標の説明でも触れていたが、生徒が行方不明になった時の訓練について確認したい。同じマンションに住む本校の方（2日間行方不明だった）件についてである。その時、自分もその保護者と面識があり相談の連絡がきた。その際「学校の緊急連絡先にも連絡したが出なかった。」とのこと。学校運営協議会委員となったのでこの件について確認したい。もちろん事故や事件というのは、警察に電話するのが1番だが、保護者としては学校にも情報を知っておいてもらいたいと電話をかけている。電話が通じなかったこと、事後どういう対応を学校側がしたのかを聞きたい。
事務局：副校長	・副校長、教頭は今年度着任し、学校携帯を管理職が土日持ち帰る習慣がまだできていなかった。学校に置いていたため、着信に気づけず申し訳なかった。こちらの不備になる。ご心配おかけしてしまい、お詫び申し上げる。夜の時間帯、学校電話は17時半までとしている。土日について、管理職間で声をかけあって、学校携帯を持ち帰ることを忘れないように、この件以降は気をつけている。保護者の方には、月曜日朝に電話を差し上げた、また、直接送迎時にお会いしてお詫びを申し上げた。こちらの準備不足、自覚不足があって、本当に申し訳ない。以後気をつけていきたい。

委員7	・無事に見つかり何事もなかったので良かった。もちろん親としては、GPS を持たせたり、いろいろ対処はしているとは思うが、ちょっとした隙間にいろいろなことが起きて最悪なことが起こるということはあると思う。起きないのが一番だが、そういうことを想定して対応していただきたいなという気持ちがあったので、今後よろしくお願いしたい。
委員1	・生徒の安全安心が大事なポイントなので大事にしていきたい。10月の第2回、2月の第3回の場でも何かお気づきの点があればご意見いただきたい。
	〇不祥事ゼロプログラム（資料10の説明）
事務局：副校長	・学校では、教職員の不祥事ゼロプログラムを策定し、ホームページにも掲載している。私たち教職員が生徒たちの安全を第一に、不祥事を起こさないという取組を行っている。今年度も昨年度に引き続き、「同僚性を高める」「認め合う、支え合う、褒め合う」「自分事として考える」をキーワードとして取組む。4月になり、神奈川県教育委員会でもわいせつ事案等の処分等の記者発表があり、本当によくない状況があるので、本校でも意識を高く持って進めていきたいと考えている。ただ決まりを守らせるために締め付けるのではなく、これまで上手くいった事例等を共有しながら、研修においてはわかりやすい内容を工夫して、経験の幅が様々な教職員たちに対して取り組む。個人情報を漏洩したり、生徒にケガをさせてしまったり、教員自身が不適切なことをしたりということがないように、自分たちがお互いに気をつけるようにしていきたい。生徒たちが安心して学校に通える、また保護者の皆様が安心して送り出していただけるように事故・不祥事防止に努めていきたいと思う。
	<切れ目ない支援部会>　※「地域との連携」令和8年度の取組みについて（追加資料1の説明）
事務局：連携支援GL	・地域との連携ということで、これまで行ってきた取組を継続し実践して行っていくことが一番大きなところ。昨年度に開始したことは、瀬谷区のハマロードサポーターに登録したこと。委員5の学校も登録していると聞いたがいかがだろうか。
委員5	・情報は来ており、本校も登録はしたが活動できていない状態である。
事務局：連携支援GL	・本校もハマロードサポーターとして、瀬谷区の土木事務所に登録申請をし、認定書をいただいた。何か特別なことではなく、以前から継続している近隣地域での活動がハマロードサポーターとしての内容に合致しており本校生徒の活動で、作業学習の授業として進めている。登録したことで、清掃用具をいただいた。ハマロードサポーターのジャンパーと帽子もいただき着用して活動する日もある。通常の近隣地域の農園で作業をする日もある。グリーンサービスユニットはその活動をしている。今年度は、作業学習だけでなく、学年の活動で行う話もあり、登録について今後検討していきたい。 ガパオ祭りは、今年度で3年目の参加である。皮切りイベントが昨年から始まり、瀬谷駅前でパン販売したが、今年度は瀬谷駅前に工事が入るので、できないという話も出ている。ガパオ祭りは秋に開催となった。近隣スーパーには、オフィスサービスユニット作の袋を置かせてもらっていたが、閉店してしまったので、新たに置いていただける場所を開拓したいという話が出ている。
事務局：副校長	・新規委員もいるため、切れ目ない支援部会について説明。特別支援学校の学校運営協議会では、本部会は設置が必須である。就学前機関や卒業後の企業、福祉施設等とのつながり、ライフステージに沿った「タテ」のつながり、地域の幼稚園や学校との交流及び共同学習やセンター的機能による巡回相談等によるつながり、地域社会との「ヨコ」のつながり、等について協議する部会である。 「共生社会」の実現、子どもたちの「自立と社会参加」の実現に向け、ライフステージに応じた「切れの目ない」支援、地域社会と関わる際の支援が必要であると考えている。これらの支援をコミュニティ・スクールという場で円滑に実施していくために、「切れ目ない支援部会」を設置している。 特に、本校は横浜市の中にある、県立特別支援学校ということで、瀬谷区や地域の自治会の皆様、近隣の小中高の皆様、いろいろな支援機関とこのような形で連携させていただいている。今年度も、地域との連携に取り組んでいく。2学期には、避難所体験等も一緒に行っていただきたい。

	＜地域防災部会＞　※「今年度の学校の取組み・地域の取組み」について
委員3	・横浜の防災拠点は小学校と中学校が主だが、ここは唯一県立学校の地域防災拠点。防災拠点の活動自体はすごく難しく、終わりがない。延々と続く活動で、みんなで一生懸命やり続けると息切れして大変だし、やらないといざという時に困るしというもの。どう活動を継続していけるか、考えているところ。また、この防災拠点が他と違うところは、小、中学校であれば地震が起きても夜になれば親が迎えに来て、児童生徒の皆さんは自宅に帰れると思うが、ここは大和市や藤沢市など遠くからも生徒が通っているので、生徒の大部分が（夜も）ここに残ることになるのではと思っている。それが、他とは違う大きな部分。当然ここは周りに70近い自治会があるが、その方々が避難してくる。なるべく自宅に居られる方は居てくださいと言っているが、避難してくる方もいると思う。 　昨年度、本校で開催された防災講座でも出ていたが、ここ一帯は地盤が固い地域で、地震でも揺れない地域。東日本大震災でも茶碗一つ割れてない地域なので、講師の方にも羨ましいと言われたほど。津波の心配もない、河川の氾濫の心配もない。予想される状況としては火災くらいではないか。この周囲は広域避難場所になっている。比較的恵まれた地域であると思う。 　避難してきた時に困らないような備蓄品、飲み物、食べ物は多少保存してある。誰が来ても、誰が見てもわかるよう工夫して倉庫は整理してある。また、ここは瀬谷区だが、防災拠点に避難してくる人は泉区が多い。この地域で瀬谷区は委員2の自治会のみ。行政区も2つ重なっているのが特徴でもある。何かあったら、学校と協力しながら対応し運営をしたいと思うので、よろしくお願いしたい。
委員2	・横浜ひなたやま支援学校の防災拠点と瀬谷さくら小学校の防災拠点がある。瀬谷さくら小学校の防災拠点は水害があったら、避難場所は瀬谷第2小学校へ行かなければならない。不便であると瀬谷区に伝えているが、キャパシティの問題等があるのかもしれない。行政はなかなか見直しをしてくれない。東日本大震災の際に宮城県の大川小学校の件があったので気になっている。瀬谷さくら小学校そばの境川で水害が起きて川が氾濫して避難する場合、瀬谷第2小学校まで行かなければならない。坂を上がれば安全地帯なのに、なぜそのようになっているのか疑問としてある。瀬谷区の拠点防災の会議があると、瀬谷区と泉区の担当者に変更を依頼しているがなかなか変わらない。自治会関係者間では、横浜ひなたやま支援学校と瀬谷さくら小学校、南瀬谷中学校が連携した方が良いかもという話もしている。
事務局：副校長	・学校種を超え、関係する行政を超えて地域との連携を進めていくことにつながると思う。 〇閉会 ・会長よりご挨拶 ・副会長よりお礼 〇事務連絡 ・次回の第2回は、10月27日（火）9：30～11：30である。 ・第3回の日時は令和9年2月25日（木）9：30～11：30へ変更する。